

治水・利水・環境に配慮し生まれ変わった

お お く ほ ぜ き

大久保堰





事業実施による効果

【改築前】

治水 氾濫面積：90ha
 浸水家屋：45戸
 (昭和62年8月発生洪水被害)

利水 取水機能

環境 片側魚道・河床低下により魚類が迷走し遡上できない

【改築後】

治水 流下能力の確保
 被害無し(昭和62年8月発生洪水被害)
 河床の安定

利水 従前の取水機能を維持

環境 両岸への魚道整備により、あらゆる魚種が多く遡上可能

特徴 Characterize



30%以上のコストが縮減

- ゲートのユニット化
- 煙柱が不要
- 管理橋が不要



新採用
SR合成
起伏堤

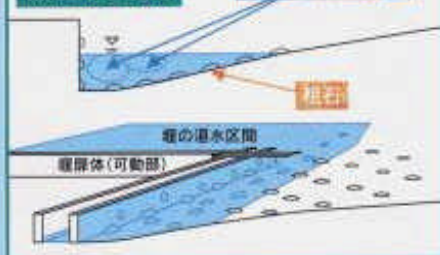
日本における大規模施工は「大久保堤」が初めて!



粗石付き斜路式魚道

魚道の考え方

色々な深さと流れ



左岸魚道の状況

該物川に棲んでいる色々な種類の魚が、堰の上流と下流に行き来できるように、左右岸に魚道をつくりました。特に、左岸側の魚道は、「粗石付き斜路式魚道」とし、多くの魚が使いやすいように、さまざまな水の流れができるようにしました。

大久保堤魚道の設計対象魚(11種)

- アユ
- ウグイ
- アカザ
- サケ
- ヤマメ
- サクラマス
- トミヨ
- カシカ
- ヤツメウナギ
- ウキゴリ
- モクスガニ

